

「一人で考える力」

校長 高田 晶子

立春が過ぎ、春にちなんだ言葉を目にする機会が増えました。3年生は入試本番を迎え、日々の生活を引き締め、追い込みをかけているようです。また、1, 2年生は、今年度のまとめとなる学年末テストに向け、授業に集中する姿が見られます。生徒同士、先生と生徒間、一緒に時を過ごすごとに会話も増え、まとめの学期にふさわしい生活が送られていると感じられる今日この頃です。



さて、詩人 金子みすゞの作品の『私と小鳥と鈴と』にある「みんなちがって、みんないい」という言葉はご存知でしょうか。有名な作品ですのでご存知の方も多いかと思いますが、この解釈は「あなたはあなたでいい」のだと解説されています。言葉だけを捉えて、「個性だからみんなと違っていてもいいんだよ。」とか「いろいろな考え方があるからね。」などという言い回しで使う人もいるようですが、この「あなたはあなたでいい」という「個」に視点を当てて考えてみたいと思います。

日本人は他国に比べ「群れる」ことを善しとしてきました。「個」の自律が弱い日本では、「群れ」を作り個性を殺して付き合う習性があると言われていています。これからの近代を生き抜く若者は、一人一人が自律し、自分の考えをしっかりと持ち、行動に移していける強さを持つことが大切です。生活に身近なこととすれば、まもなく民法の改正により成人年齢が18歳に引き下げられ、親の同意が無くても契約をしたり、資格の取得や裁判員に選ばれたりするようになります。自分で考えて行動することが試されるようになるのもいえるのではないのでしょうか。決して良いことばかりではないので、心構えをしていかなければなりません。そのために、一人で考える力により「あなたはあなたでいい」力をつけなくてはならないでしょう。

新学習指導要領の実施により教育改革が大きく進む中で、学校の授業では「主体的・対話的で深い学び」を意識した学び方の研究も進められています。先生の一方通行の授業ではなく、仲間と同調して参加しているだけでなく、個の考えや授業の進行とともに深める学びが求められるようになってきています。この先には、人生をどのように生きたらいいのか、人生百年時代にどのように自分らしい生き方ができるのか、そのような力がつくことを期待されているように思います。具体的には大学入試の方法が少しずつ変わり、それにあわせて、英語教育が早期から始まるなどの教育改革が進められています。

学校の授業だけでは一人で考える力はつきません。授業をきっかけとし、毎日の生活の積み重ねの中で、一人で考える力をつけていくことの大切さを考えるこの頃です。